救護活動や日々の訓練の大切さを学ぶ

～東通村赤十字奉仕団・青少年赤十字（ＪＲＣ）交流会～

11月25日、東通小学校において、赤十字の使命や救護活動・福祉活動の尊さを学ぶことを目的に、東通村赤十字奉仕団と東通村青少年赤十字の交流会が開催されました。

東通村青少年赤十字から東通小学校6年生の児童41名が参加し、東通村赤十字奉仕団の指導を受けながら炊き出し訓練を行いました。

訓練では、ハイゼックスという特殊な袋にお米と水を1人分ずつ入れ、大きな鍋で80人分の白米を炊きました。袋の中に他の水が入らないように輪ゴムで特殊なくくり方をするため、児童たちは何度も失敗しながら、一生懸命お米の準備をしました。

お米が炊き上がる間、児童たちは日本赤十字社青森県支部指導講師の吉田實先生の講演に耳を傾けました。吉田先生は、平成23年3月11日の東日本大震災を振り返り、災害時における行動を再認識し、万一のために、日々の訓練等が必要であることを教えて下さいました。

講演が終わると、いよいよ実食。児童たちが四苦八苦して準備したお米は、1つも失敗することなく、見事に炊き上がりました。東通村赤十字奉仕団特製のカレーと一緒に食べると、あちらこちらから「おいしい！」の声が上がっていました。

ハイゼックスの袋にお米を詰め、輪ゴムで止めたら、沸騰した釜に入れ４０分の炊飯。東通村赤十字奉仕団の皆さんが優しく丁寧に教えていました。

赤十字活動資金にご協力ください ～平成２９年度の社員増強・社資増収運動がはじまります～

近年わが国では、自然災害が多発しており、昨年４月に発生した熊本地震、８月に発生した台風 10 号をはじめとする豪雨災害、10 月に発生した鳥取地震では、人的被害はもとより家屋等に甚大な被害を受けました。日本赤十字社青森県支部（以下「県支部」）は、熊本地震の被災地に八戸赤十字病院の医師等で編成する救護班を派遣し巡回診療などの医療救護活動を実施したほか、台風によって甚大な被害を被った北海道の被災者を支援するため、当県支部が備蓄している救援物資を北海道支部に提供するなど、物心両面による支援に努めました。

また、東日本大震災の発生から６年が経過いたしますが、日本赤十字社では、各国赤十字社などから寄せられた約１千億円の海外救援金を資金に、今なお被災地の復興支援活動を継続して行っております。

災害救護活動のほかにも、人命救助を目的とする救急法等講習会の普及、地域等で福祉活動を推進する赤十字奉仕団の育成や、子どもたちの“やさしさと思いやり”の心を育む青少年赤十字の育成などの多岐にわたる活動を行っており、これらは赤十字社員が納めて下さる社資（社費・寄付金）を財源に行われています。

県支部では、平成 29 年２月１日より、平成 29 年度に実施する赤十字活動の資金確保のため、《赤十字社員増強・社資増収運動》を実施いたします。

日本赤十字社が果たすべき役割と《赤十字社員増強・社資増収運動》の主旨をご理解いただき、県支部が行う赤十字活動の推進のため、東通村の住民のみなさまの赤十字社員への加入ならびに平成 29 年度の社資（社費・寄付金）のご協力について、よろしくお願い申し上げます。

《お問い合わせ》日本赤十字社青森県支部　組織振興課　☎　017－722-2011
日本赤十字社青森県支部　東通村分区　☎　0175－28-5800（いきいき健康推進課内）